会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和4年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業（３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回共通基盤整備事業運営委員会 |
| 開催日時 | 令和5年2月15日（水）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | ＡＰ品川アネックス　 |
| 出席者 |  委　　員：岡村　慎一、五十部　昌克、藤井　達也、山根　大助、谷　昌一、杉浦　敦司、松本　晴輝、松田　義弘（OL）増子　卓矢（OL）、沖　直彦（OL）　　　　　計10名　　　　　　　　請負業者：八木　信行、飯塚　正成　　　　　　　 　計2名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　合計12名 |
| 議題等 | 〇事業成果の概要報告（五十部）・資料に従い、以下の内容について説明。(1)自己点検・評価普及セミナー・目的は、令和3年度に開発した、自己点検・評価モデルを普及することにより、専門学校における透明性の高い適切な自己点検・評価体制を整備すること。・方法は、対面会場開催（3回）及びオンライン配信（2回）を実施いたしました。具体的には、　令和4年9月30日(金)福岡会場 参加33名　令和4年10月7日（金）オンライン配信 参加75名　令和4年10月14日(金)東京会場　参加31名　令和5年1月31日(火)大阪会場　参加8名　令和5年2月7日(火) オンライン配信 参加79名・受講対象は、職業実践専門課程設置校及び自己点検・学校関係者評価に係る運営責任者・担当者を対象としました。(2)第三者評価認証簡略化モデルの検証及び完成版の開発 第三者評価認証簡略化モデルを運用する組織運営ガイドラインの検証及び最終開発・目的は、第三者評価に関する理解を深め、中小規模の学校であっても第三者評価への積極的な参加・受審を促すため体制を整備することや第三者評価簡略化モデルおよび組織運営ガイドラインの内容を検証し、完成版作成に必要な改善点等を明確にすることです。・手順としては、1. 令和3年度に開発した第三者評価簡略化モデルの精査に加えて組織運営ガイドラインを開発。

②①の開発物による簡略化モデル及び運営ガイドラインによる審査・受審の試行及び実施検証③試行結果をもとに、第三者評価簡略化モデルおよび組織運営ガイドラインを完成で、行ってまいりました。・実施内容は、第三者評価機関の協力の下、専門学校を対象とした認証評価の試行及び実施検証を行いました。・具体的には、審査機関：2機関による審査　　　　　　特定非営利活動法人職業教育評価機構　　　　　　JAMOTE認証サービス株式会社　受審校　：3校から審査・受審　　　　　　YIC京都ペット総合専門学校　　　　　　長野医療衛生専門学校　　　　　　静岡県東部総合美容専門学校　審査手順：①書類審査（約6時間）：　　　　　　　受審校からエビデンス・書類を事前に提出。　　　　　　　認証機関及び本委員から審査員による書類審査1. インターネット審査（約2時間）：

　　　　　　　学校責任者及び学校運営管理者等を対象とした審査　　　　　　　認証機関及び本委員から審査員による遠隔審査1. 現地審査（約5時間）：

審査員3名が現地訪問し、教員インタビュー及び施設設備審査この様な手順で検証・開発を行い、「第三者評価認証簡略化モデル完成版」および「組織運営ガイドライン」を完成させました。(3)内部質保証人材育成プログラムの検証・開発・目的は認証機関に依存せず、専門学校内部において質保証を行える体制を整備及び　内部質保証人材育成プログラムの内容を検証し、育成プログラム完成版を開発することです。・方法は、令和3年度に実施した内部質保証人材育成プログラム作成調査の結果・分析に基づいた15時間程度の育成プログラムを作成・実施・検証することでおこないました。・検証研修の実施は2日で行い、1日目はオンライン、2日目は福岡での対面研修としました。　1日目：令和４年１１月１５日（火）オンライン開催　2日目：令和４年１１月２５日（金）対面開催（福岡会場）・受講対象は専門学校の組織管理・運営、又は正規課程若しくは正規課程以外の教育指導や課程等の編成で、３年以上の実務経験を有し、当該知識を有している教職としました。・プログラム概略は、1. 学校評価ガイドラインに沿った自己評価・学校関係者評価の進め方～専修学校における第三者評価の取組（私立専門学校等評価研究機構）
2. 専門学校の職業教育を取り巻く評価制度と簡略化モデルの役割/ISO29993：2017の要求事項について
3. 監査演習（グループ演習・討議）/自己評価報告書の作成演習（グループ演習・討議）

このようなことで、「内部質保証人材育成プログラム」を完成することが出来ました。〇意見交換・当校では、本年度第三者評価を受審した。5年に1度受審することとしている。この受審自体が文化として根付いてきており、教職員の姿勢も前向きな姿勢です。現在困っているのは、当校のエビデンスやコミュニケーションが電子化していることです。業務フローも電子化されており、その中から期待されるエビデンスをわざわざ抽出しなければならないということです。例えば、学習指導等は対面や電子的なもの具体的にはSlackによるコミュニケーションをしているが、この中でどこからどこまでがエビデンスに相当するのかを抽出してプリントしなければならない。このような状況になると、第3者評価自体の電子化も今後検討してほしいと思う。（杉浦）・今回はエビデンスに基づいた自己点検・評価やその担当となる内部質保証人材の育成プログラムに着手しました。第三者評価についても簡略化版のモデルを開発し各校が取り組みやすい環境の整備をしてまいりました。こうしたことは、地方の小さな学校であっても一定の教育の質を保証する試みに繋がれば良いと考えています。研修プログラムを担当する教員育成等はまだ積み残しがあると思いますし、継続的にこうした取り組み行っていきたいと考えます。（岡村）・大学とは違った専門学校独自のアプローチに繋がると良いと考えます。（松本）・今回は、審査員という形で第三者評価に参加することができた。このことが投稿にとっても、私にとっても大変勉強になり価値のあることでした。（沖） |
| 配布資料 | ・事業成果報告 |

以上